

OS交配

●ハウス●9月～3月定植 ●越冬・促成・半促成・無加温



S-36

キュウリ

●ウドンコ病・褐斑病・ベト病に極めて強い ●高品質かつ多収性

節成りが高く 分枝性が良い
果肥大早く 終始果形が安定
高品質で 秀品率高い
食味・食感良好

摘芯栽培・つる下ろし（更新型）栽培



OS
交配

S-36

品種20

特性と栽培のポイント

特性

- ◎ウドンコ病と褐斑病の双方に強い耐性を示し ベト病にも比較的強い
- ◎節成り性高く 分枝性は良い 摘芯栽培・つる下ろし（更新型）栽培可能

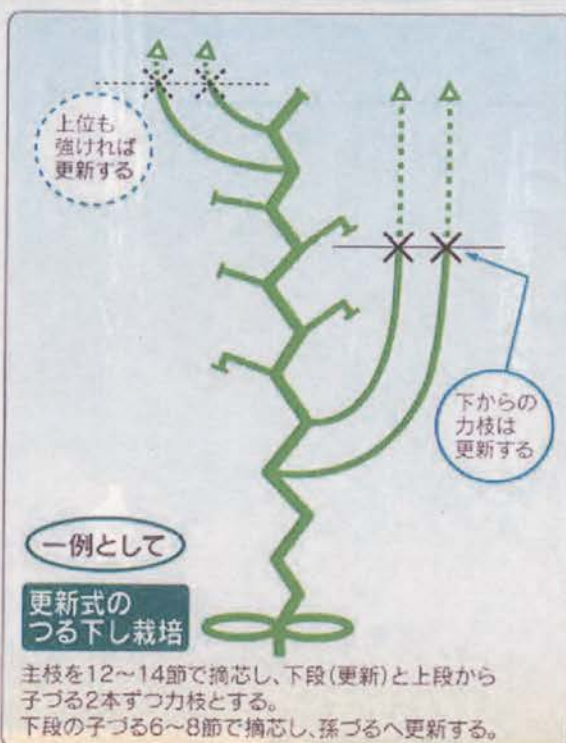
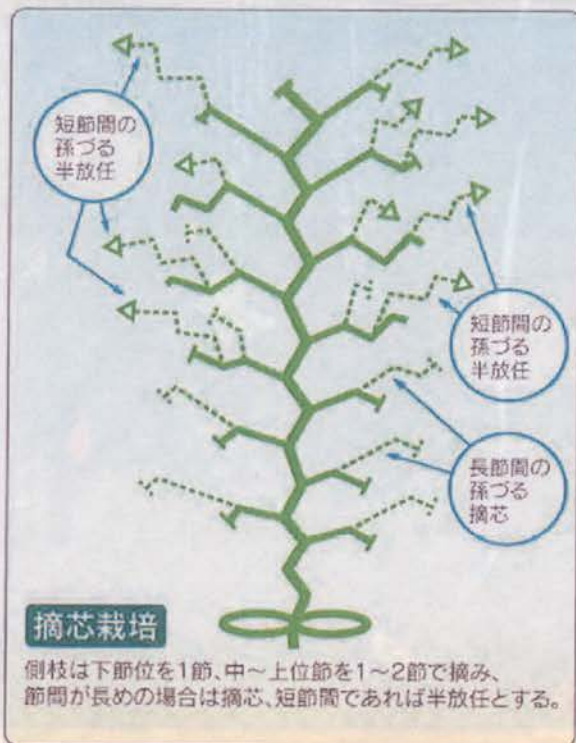
適作型	ハウス：9月～3月定植 越冬・促成・半促成・無加温
雌花率	ほぼ100% (7月まき・8月まきは雄花節もある) 1～2果成り
草姿・草勢	主枝：太さ中位で中節間 側枝：中節間 孫枝：側枝の収穫が始まってからも順次発生する 葉：やや大きめ、葉色はやや濃くしっかりとした生育
果実	肩から尻まで良く整った円筒形で果揃いが良い 100g21～22cm 鮮緑色で光沢極良 ポの大きさ普通 食味・食感が良く、店持ち性も良い
収量	主枝雌花着生の多さと果肥大の良さから初期収量多い 分枝性が良く 草勢バランスが終始安定し 流れ果が少ないため安定した収量構成を示す つる下ろしの場合、適当な2果成り性があるため収量の山谷が少ない
耐病性	病気の発生は全般に少なく 特にウドンコ病・褐斑病に強い耐性を持つ

栽培のポイント

側枝の発生は強いが、雌花率高く、果実肥大も早いため、しっかりとした樹作りが必要。初期生育が草勢強くない場合は、主枝下節位の雌花数を制限する。

- 定植から活着、伸び盛り、収穫始まるまでは基本的な肥培管理で、徒長させずに旺盛な生育を図る。
- 摘芯栽培の場合、主枝果実～側枝果実の連続肥大時期までの草勢に合わせて、摘芯の強弱を考慮する。
- つる下し栽培の場合、作型や栽培環境を考え、仕立て方を選択する。基本、下からの力枝は更新する。
- ブルームレス台木は、OS交配ゆうゆう一輝（黒タイプ）、オールスター一輝、RK-3、FGY が適する。
- ブルーム台木では、ウルトラ南瓜、ウルトラG南瓜、ウルトラ9B南瓜 が適する。

仕立て方の例



きゅうり・かぼちゃ・メロン 育成元
株式会社 **埼玉原種育成会**
〒346-0105 埼玉県久喜市菖蒲町新堀 2616 番地
TEL : 0480-85-0854 (代) FAX : 0480-85-0407



OS 交配種子 発売元
株式会社 **シード**
〒346-0105 埼玉県久喜市菖蒲町新堀 2616 番地
TEL : 0480-85-7211 (代) FAX : 0480-85-0407